

東日本大会等出場激励会を開催 ～馬頭ウイングスポーツ少年団～

全日本小学生選手権大会県予選会で3位となり、第3回東日本小学生女子ソフトボール大会(7/30～7/31・花巻市)と第28回関東小学生男女ソフトボール大会(8/6～8/7・大田原市)に出場する馬頭ウイングスポーツ少年団の激励会が、7月20日、山村開発センターで行われました。

激励会では、まず大金町長から馬頭ウイング団長の黒川隆行さん(馬頭)へ激励金の目録が手渡されました。続いて町長の激励のあいさつがあり、そのあと全員が大会に向けての決意表明を行いました。「今度こそは優勝を持ち帰りたい」「一つでも多く勝ちたい」「一生懸命声を出して応援したい」と力強く決意を語っていました。



ソフトボール投げで全国大会出場

小川南小学校6年の時庭彩加さんは、6月19日に栃木市総合運動公園で行われた県予選会のソフトボール投げで1位となり、第27回全国小学生陸上競技交流大会に出場することになりました。もう少しで新記録となる58m53の記録を出した時庭さんは、7月7日に役場町長室で行われた激励会で「思い切り投げられて楽しかった。全国大会では60m投げられるようにがんばりたいです」と話していました。全国大会は、8月26日・27日の2日間、神奈川県の日産スタジアムで開催されます。



馬頭ウイングスポーツ少年団は東日本小学生女子ソフトボール大会で優勝しました。おめでとうございます。

お詫びと訂正

先月号の「シリーズ④」の「小川南ポテトクラブ」の紹介が、小川南ポテトクラブの代表として誤りがありました。代表として誤りがありました。青柳さんの連絡先は、正しくは、02087996347で訂正いたします。お詫びして、

広報文芸

俳句

虹立ちてさびしき街のはなやげり
農園の杭に忘れし藁帽子
梅雨晴間おにぎり携へ出発す
水棹もて五月の荒瀬さしのぼる
清和なる空や慰霊碑掃き清む
君臨す月光浴の白牡丹

馬頭 塚原 廣
松野 大高 富美
松野 鈴木 君枝
小川 小川のぶ子
吉田 国安 薫
小川 和泉すみを

短歌

宿題の蚕の桑を採りに行く国民学校四年生の夏
人生が見渡せるといふ六十代されど那須野に朝露深し
飛ばされしハンケチのごとまみどりの八溝の山脈白鷺がゆく
ほととぎす時節忘れずに渡り来て鋭き声の夜明け切り裂く
正月用にと友が呉れたる花豆の朱色の花が炎天に映ゆ
息子の作る濃い目のスープ旨けれど少な目にして老いに向き合ふ

小川 平澤 照雄
小川 佐藤 孝子
恩田 上杉 里子
小川 影沢 よし
盛泉 岡 イチエ
馬頭 五月女トミノ

川柳

水持参猛暑続きの野良仕事
地区リレー熱気の中に走りぬけ
余震あり全財産を抱いて寝る
白球を追って部活の子の日焼け
鰻屋の汗が鰻を旨くする

小砂 笹沼 季子
大山下郷 佐藤 有紀
小川 平澤 照雄
薬利 大嶋 克明
谷田 岡崎 甫子



新着図書

那珂川町図書館



『黄泉坂案内』 仁木英之／著 (角川書店)
タクシー運転手の速人は、入日村という村に迷い込む。そこは、河童や天狗などの妖怪たちが闊歩する不思議な村だった。村で出会った少女は、この村は現世とあの世の狭間に漂っている場所だという。現世に戻れなくなった速人は、少女と共に迷える魂の「未練」を解く仕事を始めることに。とびきりチャタリングで心にしみる、傑作民俗ファンタジー。



『たとへば君』 河野裕子・永田和宏／著 (文芸春秋)
昨年八月、乳癌のため、六十四歳で亡くなった歌人の河野裕子さん。没後、歌集が異例の増刷を重ね、新聞でもたびたび特集が組まれるなどの反響が続いている。その河野さんは夫の永田和宏さんと、出会いの頃から何百首もの相聞歌を作ってきた。その後、結婚や子育て、そして発病、再発、死まで。歌人夫婦が交わした愛の歌をまとめた一冊。



『ぼくの職場は富士山です』 近藤光一／著 (講談社)
富士山には、山開きをしている夏のたった二ヶ月の間に、四十万人以上の人が登る。その富士山の麓に生まれ、富士山の登山ガイドをしている著者は、日本一高い富士山には、人をひきつける不思議な力があると語る。五百回近く富士山に登った著者が、ガイドとして見た富士山の魅力と、富士山に対する思いを綴る。

- ◇『猫と妻と暮らす』 小路幸也／著 (徳間書店)
- ◇『レイジ』 菅田哲也／著 (文芸春秋)
- ◇『ジュージュ』 よしもとばなな／著 (文芸春秋)
- ◇『我が家の問題』 奥田英朗／著 (集英社)
- ◇『八月からの手紙』 堂場瞬一／著 (講談社)
- ◇『パパは今日、運動会』 山本幸久／著 (筑摩書房)
- ◇『パパの記憶』 藤原智美／著 (集英社)
- ◇『ぬるい毒』 本谷有希子／著 (新潮社)
- ◇『希望』 乙武洋匡／著 (講談社)
- ◇『日本の農業が必ず復活する45の理由』 浅川芳裕／著 (文芸春秋)
- ◇『常識いらずのお料理入門』 阿部純子／著 (講談社)
- ◇『原発報道とメディア』 武田 徹／著 (講談社)
- ◇『間違いたらけのクルマ選び』 徳大寺有恒／著 (集思社)

た、FCアラノは、年間を通してサッカーとフットサルの大会に出場しています。

シリーズ「スポ少」紹介⑥ FCアラノ スポーツ少年団



【練習日】H23年度
☆小学3～6年生:毎週月木
☆幼児～小学2年生:毎週月
【時間】☆19:00～20:30
※基本的にナイター練習です。
※土日に大会、練習試合等があります。
※フットサルの練習(大会)は屋内(体育館)です。
【練習場所】☆那珂川町小川運動場ほか

FCアラノは『児童の健全育成』を主に『サッカーが好きなお子さんの育成』と『うまく強いチームの育成』を指導の3本柱に掲げ、日々活動しています。

チーム名(アラノ)の由来は、旧馬頭町の新町(あらまち)という土地名の“アラ”とサッカーの本場イタリアの都市名(ミラノ等)でよく見かける“ノ”をかけて“アラノ”と名づけました。

第27回全日本少年サッカー大会栃木県大会では準優勝を成し遂げ関東大会出場を果たすなど、これまでに数多くのタイトルを獲得しています。

毎年秋にはFCアラノの主催大会『那珂川ちびっこミニサッカー大会』を開催しており、毎回50を超える沢山のチームが参加し盛大に執り行われています。ミニサッカー大会としては県内最大級の大会です。ま

※お父さんお母さん、子どもと共に充実したスポーツライフを送ってみませんか。もちろん、「なでしこ」(女子団員)も大歓迎です。
連絡先
FCアラノサッカースポーツ少年団 団長 藤田善久
☎090-1508-0340